

21 高次脳機能障害情報・支援センターウェブサイトの運用評価について

企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター 今橋久美子、中島八十一、深津玲子、井上美紀、君嶋伸明、宮坂良子、菅野博也、森公士朗、園田悦子、許優子

【背景】高次脳機能障害情報・支援センターでは、平成24年度（2012年）にウェブサイト（http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/）をリニューアルし、コンテンツの整備と更新を行ってきた。本研究では、サイトアクセス数の増加を目的として運用評価を行い、現状把握と今後解決すべき課題を明らかにした。

【方法】アクセス解析ツールを用いて、ウェブサイトへのアクセス状況を開設年（2012年9月～10月）と現在（2016年9月～10月）で比較分析した。分析事項は、下記12項目とした。

【結果】

ウェブサイトへのアクセス状況の比較

項目(1か月あたり)	2012年	2016年	比較
1) セッション	7,356	28,056	3.8 倍
2) ユーザー	5,742	21,454	3.7 倍
3) ページビュー数	30,194	52,291	1.7 倍
4) 1セッションあたりページ数	4.1	1.9	0.4 倍
5) 平均セッション時間(秒)	191	144	0.8 倍
6) 1ページあたり滞在時間(秒)	46.1	77.4	1.7 倍
7) 直帰率	37.5%	69.4%	31.9 ポイント
8) 新規セッション率	68.7%	65.7%	-3.0 ポイント
9) デバイス デスクトップ	82.4%	49.2%	-33.2 ポイント
モバイル	15.5%	45.6%	30.1 ポイント
タブレット	2.1%	5.2%	3.1 ポイント
10) アクセスの多いページ	「症状」「理解する」「医学的リハプログラム」「よくあるご質問」「福祉サービスについて知りたい」「相談窓口」		変化なし
11) 検索に使われたキーワード	「高次脳機能障害」 +「リハビリ」「手帳」「検査」「支援」		変化なし
12) 閲覧地域	「大阪市」「横浜市」「新宿区」「名古屋市」「港区」		変化なし

【考察】ウェブサイトへのアクセスは4年間で約4倍に増加した。1ページあたり滞在時間と直帰率が増えたことから、読者が目的とする記事に寄り道なくたどり着いていることが示唆された。また、使用デバイスの割合がデスクトップからモバイル（スマートフォン）に大きく移行していることから、スマートフォン対応について検討する必要がある。